

豊田中央クラブ 準優勝

豊田中央	0	0	0	0	0	0	0		0
豊田南	0	2	0	0	0	0	×		2

【10月30日(土) 梅坪台中学校グラウンド】

豊田・みよし予選
全日本少年春季

【決勝戦】



- メンバー
- ② (猿投)
 - ① (朝日丘)
 - ② (井郷)
 - ② (梅坪台)
 - ① (豊南)
 - ② (猿投)
 - ② (梅坪台)
 - ② (浄水)
 - ① (梅坪台)
 - ② (朝日丘)
 - ① (浄水)
 - ① (猿投)
 - ① (梅坪台)
 - ① (梅坪台)
 - ① (松平)
 - ① (高岡)
 - ① (朝日丘)
 - ① (梅坪台)
 - ① (梅坪台)
- 監督 川本 潤
代表 佐々木 亮
- (◎は主将、円内数字は学年、カッコ内籍中学)

全日本少年春季予選は決勝で豊田南クラブに0-2で敗れ、惜しくも準優勝で大会を終えた。先発北川(2年・猿投)が要所を抑えるピッチングをしたものの、2回に暴投と失策で失った2点を打線が援護することができず無安打無得点試合となった。優勝した豊田南クラブは11月3日から行われる県大会に出場する。

11月までの足跡

地域総合型スポーツクラブである「梅坪・浄水スポーツクラブ」のサポーターを受け2020年6月に活動を開始した当クラブは、1期生7人でスタート。試合も満足にできない環境のなか約10ヶ月の間、地道な練習で各自レベルアップに励んだ。翌年新たに13名の新規メンバーが加入し連盟に登録。待ちに待った大会への出場が始まった。初出場となった4月、中日少年春季予選は豊田南クラブに0-7でコールド負け。相手は3年生中心のチームではあったが力の

差をはつきりと感じさせられた大会となった。続く5月に行われた西三河大会は1回戦に勝利するものの2回戦で高岡クラブに完敗。7月に行われたさわやか杯も高橋クラブに敗れ苦しい時期が続いたが、同時期に行われた1年生大会で準優勝を収めると少しずつチームの調子が上向き始める。8月以降は松井(1年・豊南)や柿崎(1年・梅坪台)の安定した活躍がチームを支えた。2年生もこれに奮起し、夏以降からは主将の神谷(2年・井郷)や岡村(2年・浄水)らの野球への取り組みがさらに良く

なり、それに比例するように攻守に結果が出るようになった。そして迎えた全日本春季予選は坪香(2年・猿投)の2塁打3本という活躍で序盤は圧勝。準々決勝以降は堅い守りとこころ一番の勝負強さで好投手を攻略。チームの目標であった「市内大会優勝」には惜しくもあと一歩届かなかったが、「力の差はない、自分たちもやれる」と主将の神谷。自分たちに足りなかったものは何か。もう一度自分たちを見つめなおし「仰々不屈という言葉とおり、優勝という目標に向かって折れない心で立ち向かう。(宇田)

(全日本少年春季予選)

1回戦	豊田中央 23	1	藤岡南
2回戦	豊田中央 10	1	若園
準々決勝	豊田中央 4	1	益富
準決勝	豊田中央 2	1	朝日丘